

明日6月13日は、本校第118回目の創立記念日です。本日、記念式典を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症予防対策として、体育館に全校生徒が集合しての式典ではなく、校長の話を文書として配布する形にしました。

多くのご来賓の方々をお招きして、生徒のみなさんと一緒にお祝いをしたいと考えていましたが、実現できず大変残念に思います。

さて、創立記念日は学校の歴史を振り返るいい機会です。今日は最初に、本校誕生までの経緯について話をしたいと思います。

まずは、次のような時代背景がありました。

明治28年の日清戦争が終結した後、産業の近代化が急速に進展し、我が国経済は飛躍的な発展を遂げました。山形県の経済界も同様であり、米沢地方においては好景気によって購買力は増進し、企業熱は旺盛となり、産業界は著しい発展を遂げました。当時、米沢市の重要産業である織物業界においては、明治25年の織機台数886台であったものが、30年には5,328台と約6倍になりました。また、資金需要が増大するに伴い、金融機関が相次いで設立されました。そして、金融機関が整備されると企業が興り、明治30年代には織物関係の工場や会社組織が相次いで設立されました。当然、産業界の急速な発展は商業活動を活発化させ、米沢市の商業界も急速に発展していきました。米沢市の商業界にさらに発展をもたらしたのは、明治31年に電力会社が設立されたことと、明治32年に福島・米沢間に鉄道が開通したことです。

米沢の商人は先進商業地の商人と接触する機会が多くなるに従い、将来の新しい商店経営や新しい商取引の方法等を研究する必要性を感じていました。

当時の学校についてみると、米沢織物の改良振興のためには、より程度の高い工業学校を設立すべきであるという動きが起こり、明治30年米沢市立工業学校(現米沢工業高校)が開校されました。そして、置賜地方の中核的な産業として発展してきた養蚕業の一層の振興のため、技術者養成の必要性から明治34年県立置賜農業学校(現置賜農業高校)が誕生しました。さらに、普通教育を目的とする中等教育機関(米沢興譲館高校・米沢東高校)も整備されました。

従って、商業教育が取り残された形となり、商業学校設立の機運は高まっていたのです。このような時代を背景に、東寺町小学校校長の大熊富士太郎先生（本校初代校長）は、保護者や地域の有力者と接触する中で、商業教育の必要性を痛感していました。

大熊先生は協力者を集め、各方面に働きかけたものの、当時の米沢においては、商業に対する正しい認識も浅く、商人に学問は不要である、丁稚奉公による商業見習いで十分とする江戸時代からの考えが広く存在し、理解や協力を得るにはなかなか容易でなかったようです。

しかし、大熊先生はじめ、学区内の有志の並々ならぬ熱意と努力がついに実を結び、明治35年米沢市議会は商業補習学校を東寺町小学校に附設する件を可決しました。そして、ついに6月13日米沢市立商業補習学校開校式を迎えたのです。翌日の米沢新聞には、開校式の様子について、次のように掲載されています。

開校の朝は、梅雨時には珍しく晴天の日で、生徒たちが準備した「祝開校」の額を校門に掲げ、緑の竹で門をつくり、国旗を交差し、中庭には縄をはってそれに無数の小国旗を掲げた。

雲一つない青空をバックに、たくさんの万国旗がはためく様子が目に浮かびます。商業学校としての開校は、全国で35番目、東北では仙台商業、福島商業に次いで3番目でした。

東寺町小学校の片隅を仮校舎として誕生した補習学校は、立地の面では最適とは言えなかったようです。学校の周りを墓地が取り巻き、木魚や鐘の音が聞こえた、冬になれば、吹雪が障子窓から吹き込み、生徒は登校してから教室内の雪を掃き出さないと授業が始められなかったなどの記録が残っています。

明治35年、時代の要請、そして学区内の有志の熱意により誕生した本校。令和2年で118年が経過しました。そして、今春、山形県教育委員会から発表されたとおり、本校は米沢工業高校と統合して、令和7年度から新高校としてスタートします。従って、本校が単独高校として存在するのは、今後5年間となります。

続いて、学校統合を迎える私たちの心構えについて話をします。まず、「画竜点睛（がりょうてんせい）」という四字熟語があります。「画竜」とは「竜の絵」のことで、「点睛」とは「瞳を書き加える」ということです。従って、画竜点睛とは、竜の

絵に瞳を入れることです。

昔、中国のある有名な画家が、寺院の壁に竜の絵を描き、絵の仕上げとして竜の瞳を描き入れると、竜は壁から抜け出して空へ昇って行ったという言い伝えからできた言葉です。竜に瞳を描き入れることは、でき上がった竜の絵に命を吹き込むことであり、画竜点睛とは、最後に加える大切な仕上げ、いわばその物事の良し悪しを左右する最後の大事な作業であると言えます。

令和7年度に米商が米工と統合し、新高校としてスタートします。つまり、令和2年度から5年間で米商の学校名が消えます。それはとても残念なことです。私たちは5年間学校が消えるのをただ待つという姿勢ではなく、120年以上にわたる長い米商の物語をこの5年間で立派に完成させ、人々の記憶の中にしっかり残すという意気込みを持ちたいと思います。

この5年間はとても重要な仕上げの期間となります。この期間の私たちの心構えを象徴する言葉として画竜点睛を選びました。そして、画竜点睛の5年間の1年目、「終わりの始まり」が今年度です。そこで、新たに令和2年度学校スローガンとして「画竜点睛1／5（がりょうてんせい5分の1）」と決めました。

これまで本校は、商友会やPTA、そして地域の皆様の大きな期待と温かい支えにより、発展してきました。学校創立118周年を迎えるに当たって、このことに改めて感謝するとともに、これから学校スローガン「画竜点睛1／5」を掲げ、元気のある学校、魅力あふれる学校になるよう、頑張っていきたいと思います。

令和2年6月12日

山形県立米沢商業高等学校長 佐藤 敬一